

TNP 通信

NPO 法人 MINERVA 新理事長就任！

池森理事長の任期満了に伴い、7月1日に臨時理事会を開催し、MINERVA 理事の **高橋忠仁** が新理事長に就任いたしました。

また、この度 MINERVA のホームページのリニューアルとドメインの変更をいたしました。

HP の新 URL は <http://www.npo-minerva.org/>、問い合わせのメールアドレスは、info@npo-minerva.org となります。
ご興味のある方はぜひご覧ください。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

第二回「MINERVA 日本新生リレーカンファレンス 2012」開催！

～グリーンイノベーション、ライフイノベーションで日本新生を支援～

【平成 24 年 7 月 20 日(金) 開催 会場：新横浜国際ホテル南館 2F】

先月より、装いも新たに始まった MINERVA 日本新生リレーカンファレンスでは、日本新生に貢献できるグリーンイノベーション、ライフイノベーションおよび関連分野におけるベンチャー企業（およびプロジェクト）をご紹介します。

去る 7 月 20 日（金）、早くも第二回目のカンファレンスが開催されました。

今回はライフサイエンスのテーマにて、下記の 2 社より発表して頂きました。簡単ではございますが、カンファレンスの模様をご紹介します。

1. RNA 創薬と(株)リボミックにおけるアプタマー開発

株式会社リボミック 代表取締役社長
東京大学名誉教授 中村 義一氏

【中村氏略歴】

京都大学理学部卒業、1997 年京都大学大学院理学研究科博士課程修了（理学博士）、1977 年日本学術振興会奨励研究員、1978 年東京大学医科学研究所助手、1986 年東京大学医科学研究所助教授を経て、2000 年より教授。

2002-03 年医科学研究所副所長。その間、1980-81 年 JCA 大学博士研究員、1984 年 NCI(NIH)Expert 研究員、1985-88 年 NIH Frederick Cancer Research Facility PRI コンサルタント、1984/88 年 Institut de Biologie- Physico-chimie 客員研究員。2003 年大学発ベンチャー 株式会社リボミック設立。

【発表概要】

東京大学医科学研究所において長年研究を行ってきたアプタマー RNA を用いた創薬技術の実用化を目指してリボミックを設立した。アプタマーとは、特定の構造の分子と特異的に結合する性質を持つ RNA であり、新しいタイプの医薬品の開発が期待されている。アプタマーが作用する機序として ①RNA の塩基配列の相補性を利用して標的の RNA をヒックアップ ②アプタマー RNA の優れた造形力を用い標的タンパク質の捕捉がある。抗体医薬に似た作用機序であるが、抗体の 1000 倍の結合力、化学合成法で安価に製造可能、免疫排除が起きにくい、複雑な標的物質にも対応できるといった優位点がある。アプタマー-医薬の市場は 2025 年に 25 兆円まで拡大すると予想され、世界中の製薬メーカーで開発が進行しているが、リボミックではアジェンダとの連携、基盤技術の拡充、大手製薬メーカーへの早期のライセンスアウトにより新薬の開発を目指している。現在、癌、リウマチ、骨疾患、疼痛等を対象に 4 つのプラットフォームの開発が進行中である。中でも鎮痛剤である抗 NGF アプタマーはリボミックが開発を先行しており、既に最終開発候補品の作出を完了している。これまでの試験で EC₅₀ と同等以上の鎮痛効果を確認している。安全で手軽に利用できる鎮痛薬の創製を目指して開発を進めてゆく。

2. 免疫創薬と SBI バイオテック(株)の樹状細胞標的医薬品の開発

SBI バイオテック株式会社 代表取締役社長
東京大学名誉教授 新井 賢一氏

【新井氏略歴】

東京大学先端科学技術研究センターシステム生物医学部ラトリ-特任教授、アジア太平洋分子生物学ネットワーク (A-IMBN) 創立代表、東大医学部卒、東大医学系大学院終了後、東大医科学研究所を経て、米国スタンフォード大学で研究する。1981 年には分子生物学部長として、バイオベンチャー企業 DNAX の設立に参画、1989 年より、東大医科学研究所教授、1998 年より 2003 年まで所長、1997 年アジア太平洋分子生物学ネットワーク (A-IMBN) 代表、2002 年より 2004 年、東京都臨床医学研究所所長、「東京ゲノム・ヘルス構想」を推進。(財)神奈川科学アカデミー評議員、東京圏ライフサイエンス協議会会長、ゲノム創薬フォーラム会長、タイ BIOTEC、マレーシア BTC の国際顧問会議メンバー、Cold Spring Harbor Asia 特別顧問。

【発表概要】

1981 年、シリコンバレーにおいて、スタンフォード大学のアーサー・ヨシナガ、ポール・バーグ（共にノーベル賞受賞）らと共に、バイオベンチャー「DNAX 分子細胞生物学研究所」の設立に参画。HLA-T 細胞が生産するサイトインネットワークの実体を解明し、その研究成果をベースに、親会社のシリンガ・プログラムの協力により医薬品の開発に貢献。東大医科学研究所教授として帰国後はそれを継承し、アジアでの展開のために当社を設立した。免疫制御に関する最高水準の技術基盤と特許をベースにし、自然免疫の主役である樹状細胞を標的に、①がん抗原を記憶させる「免疫細胞療法」②免疫機能を制御する免疫センサーに作用する「免疫調節医薬」③因子に特異的に作用する「抗体医薬」を開発している。がんやリウマチ等の自己免疫疾患を対象に前臨床フェーズ 1 段階の 8 つのプラットフォームの開発を進行している。従来の患者に負担が大きく、高リスクのガン治療から、患者の個々の免疫力を活かした患者に優しい治療への転換と、個の医療 = パーソナライズド・メディシンの確立を目指している。



今後もいろいろな企画を検討して参りますので、是非ご期待下さい。
次回の予定につきましては改めてご連絡いたしますので、よろしくお願い致します。

NPO 法人ベンチャー支援機構 MINERVA

(TEL)045-470-8668 (FAX) 045-470-8818
奈尾

(株)TNP パートナース、(株)TNP オンザロード

(TEL)045-470-8088 (FAX) 045-470-8090
井汲/吉岡